

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第5回斑鳩町男女共同参画推進委員会
開催日時	令和8年2月24日（火）
	午前9時32分～10時09分
開催場所	斑鳩町役場1階 第2会議室
議長等の氏名	会長 大方 美香
出席者（委員）の氏名	上田 昌功、大方 美香、萩原 有紀、山本 結子
欠席者（委員）の氏名	石川 裕之、宮崎 高尚
事務局職員職氏名	町長 中西 和夫 総務部長 面巻 昭男 政策財政課長 中尾 歩美 政策財政課課長補佐 岡山 真由美 政策財政課主査 中林 優介 委託事業者：(株)サーベイリサーチセンター 西川 理津子
議題	(1)「女と男が輝く未来計画-第4次斑鳩町男女共同参画推進計画-」（案）について
会議結果	発言内容のとおり
会議経過	1. 開会 会長挨拶 2. 議事 事務局から会議資料確認 会議録の署名委員として、上田委員と萩原委員を指名 (1)「女と男が輝く未来計画-第4次斑鳩町男女共同参画推進計画-」（案）について 事務局から資料に基づき説明 3. 答申 4. その他 事務局から今後のスケジュールについて説明 5. 閉会
会議資料	資料1 第4回斑鳩町男女共同参画推進委員会（書面開催）における委員意見と町の考え方 資料2 女と男が輝く未来計画-第4次斑鳩町男女共同参画推進計画-（案）

発言者	発言
大方会長	<p>(1)「女と男が輝く未来計画-第4次斑鳩町男女共同参画推進計画-」(案)について</p> <p>事前確認から修正はないと伺っているが、ご意見があれば賜りたい。</p>
萩原委員	<p>事前の意見書にも書いたが、文章を読むことが苦手な方が増えてきたと感じる。例えばYouTubeの聞き流しや、どんな本でも『漫画で読む〇〇』のような感じで、活字を読まなくても済む社会になっている。行政の文書は活字がメインになっており、見ただけで、苦手意識を持たれてしまうのではないか。自分事として捉えられるような問題提起が冒頭にあることで、頑張ってみようと思ってもらえるのではないか。障害があり活字が読めない方も含め、まず入り口に立って「知りたい」と思ってもらえる工夫があると良い。</p>
大方会長	<p>計画本文はこのままとし、今後の課題として拝聴した。</p>
上田委員	<p>自治会活動においても、少子高齢化を実感している。計画の記載内容についても、多様な方々への配慮が必要であると感じる。</p>
大方会長	<p>スマートフォン等の操作についていけない人もいる。合理化が進む中、AI時代に取り残される人の参加意識にも配慮が必要である。事務局においても、そのようなご意見があることを参考にしてほしい。</p>
山本委員	<p>改めて計画を見直した上で、質問したい。</p> <p>資料2の28ページの基本目標1の一番上の指標が「男性の割合」になっているのは、何故か。男性の数値が顕著だったためと推測するが、「特に顕著だったため」と追記するのは、難しいか。</p> <p>また、38ページの基本目標3の指標「自身が受けたDV被</p>

害を『相談するほどのことではない』と思う人の割合」については、自分がDVを受けたと認識することや、相談の必要性について判断することは非常に難しいと感じる。私自身も、スクールカウンセラーに娘の相談をためらうことがある。皆が「ああいうところは、もっと深刻な人が行く場所だ」と思われがちな環境を、気軽に相談できる環境に変えるにはどうすれば良いか、また、それをどの事業に落とし込むのが難しい。アメリカのドラマを見ると、いつでも気軽に話を聞いてもらえるカウンセラーがいる。スクールカウンセラーも先生以外に話を聞いてもらえるような存在で、そのような環境が理想だが、現実はそうになっていない。指標の設定と具体的な事業がどう繋がるのかが気になった。県でも計画を策定する課と事業を実施する課の気持ちがバラバラで、各課で事業を作ってから、計画を策定する課が、計画に当てはまる事業を全庁的に探すことがある。本来であれば、先に計画を立ててから、それに即した事業を作ることが望ましいと思う。

ぜひ、「相談するほどのことではない」と思う人の割合の減少につながるような事業ができるよう、庁内でも意識を持っていただきたい。

大方会長

計画案については、現状のままでよろしいか。

山本委員

はい。

大方会長

計画が事業の架け橋になり、計画倒れにならないようにとのご意見だった。既存事業との兼ね合いもあるが、時代の変わり目でもあるので、テーマの実現にむけて事務局でも事業のすすめ方を検討いただきたい。

事務局

山本委員から意見のあった指標の考え方については、これは、事務局の提案から推進委員会の意見を踏まえて見直したものになる。

28 ページで「男性の割合」を用いた理由については、19 ページをご覧いただきたい。「結婚観・家庭観」を聞く中で、②

「子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」という問いに対して、男性の半分が「男の子は男らしく、女の子は女らしく」と回答されている。ここが特に男女で意識の差が顕著であったため、このような指標とした。

また、萩原委員からのご意見については、我々も課題として認識している。今年度、町と連携協定を結んでいる大阪芸術大学の学生に、小中学生が読んでもわかるような男女共同参画のリーフレットを作成していただいております、来年度には配布予定である。4コマ漫画を取り入れるなど、親しみやすい内容となっているので、完成後にご覧いただきたい。

委員会でも、性差を取り巻く環境について、まずは問題意識を持ってもらう必要があるとのご意見をいただいていた。38 ページの指標の「自身が受けた DV 被害を『相談するほどのことではない』と思う人の割合」を減らしたいのも、まずは問題意識を持ち、「大したことではない」と思わないでほしいという啓発を小さい頃からのことを目的として設定した。これは以前の会議での石川委員からの意見を反映した経緯もある。当課だけでなく、子育て支援課等とも連携しながら、全庁的に相談のハードルを下げる取組みを進めていきたい。

大方会長

本計画については、資料 2 を最終案とする。

(休憩)

3. 答申

大方会長

(答申書朗読)

中西町長

委員の皆様には、昨年 5 月に諮問させていただきました。5 回にわたる会議におきまして、熱心にご議論いただきました。また、それぞれのお立場から貴重なご意見を賜り厚く御礼申し上げます。

答申書に記載いただきました 3 つの留意事項につきましては、本町の男女共同参画推進における重要な指針として、しっかりと受け止め、住民の皆様とともに、さらなる推進に

努めてまいる所存でございます。

大方会長様をはじめ、委員の皆様には御礼を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

大方会長

ありがとうございました。

ただいま、第4次斑鳩町男女共同参画推進計画の策定に関する事項につきまして、町長に答申を行いました。委員の皆様方にはさまざまな角度からご意見をいただき、どうもありがとうございました。最後に、感想などあればお願いします。

萩原委員

先ほど、相談しやすい環境づくりについてのご意見があった。私は看護師をしており、「病院に行くほどでもない」「医療従事者に迷惑をかけられない」「送迎の家族に心配をかけられない」などの理由で不調を訴えられない方々のために、ボランティアのコミュニティナースのグループに加入している。コミュニティナースは病院や施設内ではなく、スーパーや喫茶店などで活動しており、私の友人は畑にいる。畑の小屋に血圧計等も置いてあり、そこを通りがかった人が友人に健康相談をすることがある。高度な専門知識を持ちながら敷居が低く、どこにでもいる専門家が活躍する時代になっている。

カウンセラーについても同様に、コミュニティカウンセラーがアドボケイトのように意見表明がしにくい人を支える専門家として地域に溶け込むことで、より優しい町になると思う。このような貴重な計画策定に関わらせていただいたことに感謝する。

大方会長

コミュニティナースが畑などにいることは、初めて知った。その情報は、どのようにして知ることか。

萩原委員

基本的に情報は表には出ないが、コミュニティナースと名乗って活動している方もいる。奈良県の山間部では、行政がコミュニティナース制度を推進している地域もある。この周辺は病院も近いので需要が少ないように思われるが、年配の

方の話題は健康に関することが多い。そうした方達と、喫茶店でお話することもある。私はあえて名乗っていないが、名乗って活動する方もおり、皆が手探りで様々なスタイルを実践している。「病院の待ち時間が長くて、座っているのがしんどい」という理由で受診を控える方もいる中で、日常的に利用する場に専門家がいるというしくみは、DVの相談などにも応用できるのではないかと思う。

山本委員

今のお話を伺って、感じたことがある。以前、福利厚生分野の部署にいた際、すぐ近くに保健師がおり、気軽に専門家の意見を聞ける環境が非常に良かった。相談窓口で聞くほどのことではなくても、日常会話の中で相談できる環境が地域にも広がり、ハードルが下がっていけば良いと思う。

また、私自身は男性が多い職場で働いており男女共同参画を肌感じてきたが、中学2年生になる娘の成長に伴い、「女らしさ・男らしさ」を考えている。「女の子だからそんなに足を広げない」と注意すべきか、ムダ毛を気にしはじめた子に「女の子だけが処理する」と伝えるのか等、教育・仕事の現場以前に「女らしさ・男らしさ」の問題の深さを実感し、日々声掛けに悩んでいる。自分事としてアンテナを張っていると様々なことに気付くが、町民にそのアンテナを立ててもらうためにはどうすれば良いか、引き続き考えていきたい。

大方会長

今は男女関係なく、美容に関心を持つ時代になってきた。行儀の良し悪しも、男女差ではなく人としてのマナーだろうと思う。思春期はいろいろと気になる年頃だが、ジェンダーへの意識も随分変わり、以前より生きやすくなったように感じる。

一方で、大学にも多くのカウンセラーが配置されているように、少子化にもかかわらず若者の悩みは広く深い。AIやSNSの時代になり、見えないところで人間関係が複雑になっていることも背景にあるだろう。

山本委員

AIに相談していたりするようだ。

大方会長

AIの方が的確な答えを出すこともあるし、カウンセラーには相性の問題もある。

他にご意見がなければ、これをもって第5回斑鳩町男女共同参画推進委員会を終了する。

以上